

令和7年度 桜和祭



SHOWA GAKUIN
SINCE 1940

SHOWA GAKUIN

昭和学院中学校・高等学校

昭和学院 広報 第50号 2025.12.24[水]発行

〒272-0823 千葉県市川市東菅野 2-17-1

TEL 047-323-4171~5 FAX 047-326-5310

<https://www.showa-gkn.ed.jp/js/>



▲実行委員製作の看板

その指揮を担った準備委員長が、本年度の桜和祭について語った。以下、令和7年度桜和祭準備委員長・手島勇太教諭の言葉である。

文化部の発表や展示、各クラスの企画、そして実行委員や生徒会本部による全体運営など、様々な場面で生徒たちの活躍する姿がたくさん見られ、まさに『百花繚乱～個性の花よ咲き誇れ～』というスローガンにふさわしい桜和祭となりました。特に、今年度の実行委員会は例年とは異なり有志の募集で集まった生徒による組織となったことで、例年にも増して生徒主体の活動が光っていたのではないかと感じています。

一方で、大きなお金を扱うという部分や安全面への配慮を要する場



▲観客を魅了した新体操部の演技

合も多く、「教員の最終確認を経てからでなければ実際には動けない」といった点から思うように事が進まず苦心する生徒も少なくなかったようにも思います。私自身も、「生徒から出たアイデアを担当の先生方に共有し、先生方のご意見を図つたものを再び生徒に伝える」といった伝達作業に時間を割くことが多く、結果的に全体の動きが遅くなってしまったという課題も散見されました。学校にお

ける主役は生徒であるということ、学校を運営していくのは教員であるということの、両輪のバランスをうまく取ることが、準備委員長に求められる使命の一つであることを改めて痛感しました。

また、スローガンにも表されているように、桜和祭は「個」を「全体」に昇華させる行事であるということも、見過ごしてはならないと強く感じました。『百花繚乱』という言葉は「1つ1つの花の美しさ」に焦点をあてたものではなく、「色んな花を集めれば1本の花よりも綺麗」ということを表しているそうです。もちろん、



▲展示発表の様子（高1・書道部）

1つ1つの花に価値を見出しそれを大切にすることは、多様性が尊重される今の時代においては特に必要とされるものの1つかもしれません。しかしながら、「個性を主張するだけ」ではそのひと一人のできることを以上のことはできませんし、社会で求められるものは「磨いた個性で集団に貢献する力」だったりします。桜和祭2日目の朝会で、私は生徒の皆さんに「早く行きたければ一人で進もう。遠くへ行きたければ皆で進もう。」という言葉を紹介しましたが、まさに同じことが言えるのではないのでしょうか。桜和祭という行事はまさしく「遠くへ行くために皆で進む」という経験を積む絶好の機会であり、それは生徒にとっても教員にとっても、等しい価値を持つかけがえのない取り組みであると言っても過言ではないでしょう。願わくは、



▲弦楽部による演奏（於：伊藤記念ホール）

昭学院における全ての活動がそうであることを心よりお祈り申し上げます。



高2IA 海外語学研修

BOSTON 10.27 MON - 11.5 MON



高2IAコースは8泊10日の語学研修を実施した。海外が初めての生徒は少し緊張していたが、全員がこの研修を心待ちにしていた。

生徒18名には13時間のフライトによる疲れも見られたが、空港で迎えてくれた現地リーダーのアランとともに Hostel へ向かい、近くのレストランで夕食を取った。Hostelの部屋は二段ベッドの6人部屋であり、ここでクラスメートと滞在期間を過ごした。

2日目～4日目までは、TALK English School で多彩な国の生徒とレベル別に分かれて午前中に授業を受け、午後はハーバード大学やマサチューセッツ工科大学(MIT)のキャンパスを訪れた。現役学生とのディスカッションやキャンパスツアー、ワークショップを通して交流を深めた。5日目はMITでロボットに関するワークショップを体験し、研究者である慶長泰周氏の講義を聴いた後、ハーバード

自然史博物館を訪問した。6日目はハーバードビジネススクール出身のポール氏から貴重な経験談を伺い、活発な質疑応答も行われた。午後は市内の図書館や教会、美術館を訪問した。7日目は自由行動の日であり、3班に分かれて買い物や観光を楽しんだ後、夕方には全員でボストン港のサンセットクルーズに参加し、美しい夜景を満喫した。最終日は再び TALK English School で最後の授業を受け、終了証を受け取った。午後はハーバード大学に移動し、今回の研修旅行の集大成である英語のプレゼンテーションに挑戦した。プレゼン後にはハーバードの学生から個別にコメントをもらい、英語での発表を褒められたことで自信につながったようだ。夜はアランの素晴らしいチェロ演奏を聴いた。

研修中、生徒たちはアランをはじめ多くの人から学び、もっと英語を勉強したいという思いを強くしたように感じる。この経験を日本でぜひ活かしてほしいと願っている。



▲終了証を手に笑顔の生徒たち



ENGLAND 7.19 SUN - 8.4 MON

海外語学研修

7.29 MON - 8.9 MON



高1・2対象のイギリス・ケンブリッジでの語学研修に参加した生徒たちは、それぞれが多くの発見と成長を経験した。当初は緊張や不安を抱えていたが、ケンブリッジの語学学校で世界各国から集まった同世代の学生と交流する中で、「積極的に自分から話しかけること



▲ウィンザー城にて

の大切さ」を学んだという声が聞かれた。英語の授業や寮生活、アクティビティを通して、「完璧な文法よりも伝えようとする姿勢が大事」「知っている単語で話してみる勇氣が必要」と実感した生徒も少なくない。特にディスコやボウリング、パンティングなどの活動では、言葉の壁を越えて友情を築き、イタリアやトルコ、ロシアなど多くの国の友人をつくることのできたと喜ぶ声が目立った。文化や考え方の違いに触れることで視野が広がり、「世界には多様な生き方がある」と感じた生徒も多かった。リーダーとしての責任を担った生徒は、「自分で考え行動する力を身につけた」と語り、他の生徒も「この経験を今後の学校生活に活かしたい」と前向きな気持ちを表している。さらに、研修をきっかけに他言語や海外進学に興味を持つなど、新たな夢を描く生徒もいた。この17日間のケンブリッジでの語学研修は、語学力の向上だけでなく、自立心や異文化理解を深める貴重な機会となり、「一生忘れられない経験」として心に刻まれた。

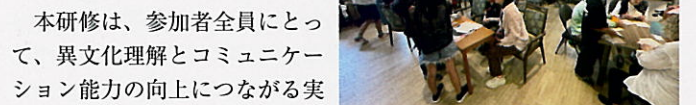


▲授業風景



▲アメリカ国境にて

生徒たちは各家庭に2名ずつホームステイし、カナダの生活を体験した。午前中は現地の教員のもと、実生活で使える英語を学習した。午後は、ファストフード店での注文やモールでの買い物など、学んだ知識をすぐにアウトプットできる実践的なプログラムが組まれた。研修には、現地の同世代の学生が授業補助役として参加し、生徒たちは彼らとの会話を通じて、気軽に英語でのやり取りを楽しみながら、カナダの文化や学生生活について学んだ。課外活動では、現地の老人ホームで日本文化を紹介する活動も行われた。カナダと日本の国歌を歌ったり、一緒に折り紙をしたりする中で、生徒たちの一生懸命に英語で話そうとする姿が見られた。



▲老人ホームにて

ブリティッシュコロンビア州ラングレーを拠点に12日間の中学生対象の語学研修が実施された。今年度から中1にも参加者を募集した結果、多くの生徒が参加した。初めての1年生の参加に不安があったものの、現地で積極的に英語でのコミュニケーションを取ろうとする彼らの姿に、現地教員も驚きを見せていた。

スピーチコンテスト

市川市中学校英語発表大会 一暗唱の部ー
9月16日(火) 於：全日警ホール

- 中1 暗唱部門 優勝 豊田 柚莉
- 中2 暗唱部門 優勝 伊藤 悠杜
- 中3 暗唱部門 優勝 奥山 美穂
- 全学年 スピーチ部門 優勝 高橋 リノ



▲出場した中学生

※スピーチ部門優勝生徒は、高松宮杯全日本中学校英語弁論大会の県大会を兼ねている千葉県大会にも出場権が与えられ、高橋さんが出場した。

令和7年度千葉県高等学校生徒英語研究発表大会 市川地区大会
10月10日(金) 於：市川文学ミュージアムグリーンスタジオ

- 高校1年リーディング部門 優勝 岡田 愛衣
- 高校2,3年生 レシテーション部門 優勝 椎野 愛茉音[高3]
- 全学年 スピーチ部門 優勝 石井 聖七[高2]

第76回千葉県高等学校生徒英語研究発表大会

10月31日(金) 於：千葉県文化会館小ホール
高校2,3年生 レシテーション部門

- 優勝 椎野 愛茉音[高3]
- 高校1年リーディング部門 6位入賞 岡田 愛衣



*スピーチ部門の出場権を獲得した石井さんはボストン語学研修のため県大会出場は辞退。

令和7年度全国高等学校総合体育大会 結果

女子ハンドボール部

優勝 2連覇達成

佐藤 奏吉先生



決勝は、3年連続で白梅学園(東京)との対戦となりました。序盤は相手の勢いに押され、前半を終えて8点のビハインド。攻守ともに後手に回り、なかなか流れをつかめませんでした。迎えた後半、選手たちは泥臭く体を張り、仲間を信じて一つひとつのプレーを積み重ねていきました。残り5分で5点差。互いに声を掛け合い、最後まで自分たちのハンドボールを貫きました。そして残り5秒、エースが同点ゴールを決め、試合は延長戦へ。延長戦では、その勢いのまま勝利をつかみ取りました。春の全国選抜大会での初戦敗退から始まったこのチームが、チーム史上初の2連覇を果たせたのは、選手の努力と、皆さまの応援・ご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

- [高3] アシユール 莉麻・永井 桜莉・牧 琴音
 [高2] 尾上 美優・金澤 夏帆・佐々木 音杜・竹内 心美・濱口 りお
 [高1] 梶野 菜月・金子 くるみ・高橋 琉・乃村 有美・峯村 心・若林 桃香

新体操部

優勝

塩屋 恵美子先生

インターハイでの団体優勝は、これまでの努力が実を結んだ最高の瞬間でした。選手一人ひとりが自分の役割を理解し、仲間を信じて演技をやり遂げた姿に、心からの感動と誇りを感じました。新体操は、技術や美しさだけでなく、精神力が問われる“精神スポーツ”です。大舞台での緊張を力に変え、最高の演技を見せた選手たちの強さは素晴らしかったです。日々の練習で培った仲間を思う気持ちと諦めない心が、この結果につながったと思います。演技後の涙と笑顔を見た瞬間、指導者としてこれ以上の喜びはありませんでした。優勝という結果以上に、努力の過程で彼女たちが精神的にも成長したことが何より嬉しく、これからの人生にも必ず活けると信じています。

- 佐波 結来[高3]
 板倉 心日菜[高3]
 魚津 凜花[高3]
 梅澤 芽咲[高2]
 中村 明里[高2]
 中川 芽依[高1]
 宮邊 桃花[高3]
 上條 千咲[高1]



女子ハンドボール部・新体操部 全国大会優勝祝賀会 10.18 [土] 於:伊藤記念ホール



全国大会で快挙を成し遂げた女子ハンドボール部と新体操部の栄誉を称える祝賀会が開かれた。

女子ハンドボール部はインターハイ二連覇と国民スポーツ大会優勝で二冠、新体操部は選抜大会二連覇に加え、インターハイ・国民スポーツ大会を制し三冠を達成した。当日は山本校長、西谷副校長、宮下副

女子ハンドボール部

校長のほか、八田吉浩氏(奨学会OB会会長)、齋藤紀子氏(同窓会会長)、林尚行氏(奨学会会長)など多くの方々が登場した。第一部では記念品贈呈とご来賓からの祝辞、監督と選手代表による謝辞が行われ、会場は喜びと感動に包まれた。第二部では映像を交えて試合を振り返り、徹談の中で交流を深め、両部のさらなる飛躍を祈念する温かな会となった。



新体操部

女子ソフトテニス部

個人 **ベスト64**

篠 未奈美[高3]

平野 帆乃花[高3]



自転車競技同好会

大坪 正典先生

小野 祥吾[高3]

準決勝惜敗



水泳部

関谷 直樹先生

男子400mメドレーリレー **決勝 第3位**

大関 伶[高3]・森田 碧大[高3]・山根 有和[高2]・小林 拓海[高3]

女子400mメドレーリレー **決勝 第5位**

関 咲也子[高2]・吉田 梨夏[高2]・大住 煌華[高3]・加藤 真希[高3]

森田 碧大[高3]男子200m個人メドレー **決勝 第4位**

大住 煌華[高3]女子100mバタフライ **決勝 第8位**

石井 超大[高1]男子100m背泳ぎ **決勝 第8位**

出場 寶地 航琉・前田 侑己・井上 紬心・松原 佑汰
 太刀川 彩葉・浅輪 帆花・石田 幸・下地 十愛・野口 華穂



新体操 世界選手権 **金メダル・千葉県知事賞** 西本 愛実 さん(高3)



8月20日(水)~24日(日)ブラジル・リオデジャネイロで開催された第41回FIG新体操世界選手権に、日本ナショナルチーム選抜団体チームの一員として本校の西本愛実さんが出場しました。団体総合での優勝という日本初の快挙に大きく貢献し栄誉ある「千葉県知事賞」を受賞した西本さん。世界の舞台上で戦った彼女が、その思いを語ってくれました。

5歳で当時最年少として日本代表フェ

アリージャパンに加入し、約3年間ナショナルトレーニングセンターで新体操漬けの日々を過ごしてきました。6歳からの夢は「フェアリージャパンでオリンピックのメダルを獲る」こと。今回、その通過点として世界選手権で総合優勝という日本初の快挙を達成しました。実感が湧かないほどの喜びでしたが、多くの方に支えられた努力が形になったと感じています。来年からはロス五輪出場枠を懸けた試合が始まります。若いチームを引っ張る存在として、前向きに挑戦し続けます。これからも応援よろしくお願ひします。



全国中学校体育大会 他 結果

新体操部

第5位

塩屋 恵美子先生

- 渡辺 きらり [中3]
- 園田 奈々晴 [中3]
- 馬場 葵 [中2]
- 福田 そら [中2]
- 池田 香心 [中1]
- 諸星 陽香 [中3]
- 松浦 花帆 [中2]
- 須永 多美 [中1]



ソフトテニス部

高原 良江先生

個人 **ベスト16**

- 平野 亜樹 [中3]
- 堂上 紗來 [中3]



水泳部

渡辺 基子先生

- 女子400mフリーリレー
- 女子400mメドレーリレー

予選惜敗

- 中野 心美 [中3]
- 阿部 真怜 [中3]
- 井上 蓮 [中1]
- 森田 紗蘭 [中3]
- 藤田 紗世 [中2]



バドミントン部

落合 太一先生

女子団体 **初戦惜敗** [1-2]

- 松藤 梨央 [中3]
- 四宮 千愛 [中3]
- 鈴木 美貴 [中2]
- 吉住 莉渚 [中1]
- 村山 陽香 [中3]
- 花山 優美 [中3]
- 三輪 波留乃 [中2]
- 佐々木 絢芽 [中1]



関東中学校体育大会 結果

水泳部

男子総合 **優勝** 男子メドレーリレー **優勝**

- 佐藤 哲識 [中3]
- 野崎 虹大 [中3]
- 堀井 稜也 [中2]
- 庄司 怜央 [中1]

体操競技部

団体総合 **第7位**

- 竹石 美紗 [中3]
- 網 小織 [中3]
- 石井 友唯 [中2]
- 村松 知咲 [中2]

男子個人総合

第23位 齋藤 英斗 [中2]

新体操部

第3位

女子バスケットボール部

関東大会2回戦 **ベスト16**
(東京都代表 日体大桜華学園中学校に惜敗)

空手同好会

第28回関東中学生空手道選手権大会

斉藤 那奈 [中3]

形競技 準決勝ラウンド **第8位**

ソフトテニス部

女子団体 **第5位** 女子個人戦 **第3位**

女子個人戦
女子出場選手

- 平野 亜樹 [中3]
- 松尾 柚乃 [中2]
- 黒沢 真利 [中3]

男子個人戦出場
男子出場選手

- 牧野 叶和 [中3]
- 篠 英聖 [中3]

女子バドミントン部

団体 **第3位**

第79回国民スポーツ大会「わたshiga輝く国スポ」(滋賀県)

ハンドボール (女子)

千葉県メンバー全員が昭和学院

少年女子 **優勝**

- 永井 桜莉 [高3]
- 尾上 美優 [高2]
- 佐々木 音杜 [高2]
- 濱口 りお [高2]
- 金子 くるみ [高1]
- 峯村 心 [高1]
- 牧 琴音 [高3]
- 金澤 夏帆 [高2]
- 竹内 心美 [高2]
- 梶野 菜月 [高1]
- 高橋 琉 [高1]
- 若林 桃香 [高1]



2年ぶり2度目の優勝
インターハイに続く二冠達成

新体操

千葉県メンバー全員が昭和学院

少年女子 個人+団体 **優勝**



- 佐波 結来 [高3]
- 板倉 心日菜 [高3]
- 魚津 凜花 [高3]
- 梅澤 芽咲 [高2]
- 中村 明里 [高2]
- 中川 芽依 [高1]
- 上條 千咲 [高1]

令和7年 **三冠達成**

[全国選抜優勝・インターハイ優勝・国スポ優勝]

水泳 (競泳)

- 森田 碧大 [高3] 男子400m個人メドレー **第5位**
- 井上 絢心 [高1] 男子100m自由形 **第7位**
- 常見 昇汰 [高1] 男子200m個人メドレー **第8位**
- 大関 [高3]・森田 [高3]・小林 [高3] 男子A400mメドレーリレー **第6位**
- 関 [高2]・加藤 [高3] 女子A400mメドレーリレー **第5位**
- 加藤 [高3] 女子400mフリーリレー **第8位**
- 石井 [高1]・松原 [高1]・常見 [高1]・井上 [高1] 男子B400mメドレーリレー **第6位**
- 石井 [高1]・常見 [高1]・井上 [高1] 男子B400mフリーリレー **第6位**



ソフトテニス (女子)

少年女子

初戦惜敗

- 篠 未奈美 [高3]
- 平野 帆乃花 [高3]



女子バスケットボール **第3位**

- 長尾 杏奈 [高1]
- 山田 莉心 [高1]
- 長山 千鶴 [高1]
- 中澤 希乃 [高1]
- 相間 すみれ [高1]



ハンドボール (成年男子)

千葉県チーム **準優勝**

峰岸 勁志郎 [教諭]



芸術鑑賞会



10月31日(金)に芸術鑑賞会が実施された。

高校2・3年生はJR東日本劇場[秋]において、劇団四季のミュージカル『バック・トゥ・ザ・フューチャー』

▲時空を超える冒険へ！

を鑑賞した。車が宙を舞う演出や巧みな場面転換に、感動の声が上がった。生演奏と効果音が融合し、迫力あるサウンドと臨場感を十分に味わうことができた。ストーリーには笑いを誘う場面もあり、原作を知らない生徒でも楽しめる内容であった。

中学生と高校1年生は有明四季劇場において、劇団四季のミュージカル『ライオンキング』を鑑賞した。事前に教員が作成した予習動画でストーリーを学んでから観劇したことで、音楽や演出、演技、場面のつながりなど、各自が興味のある点に注目することができた。客席から演者が登場したり駆け抜けたりする演出もあり、生徒たちは物語の世界に深く引き込まれていた。

初めてミュージカルを観る生徒もおり、舞台芸術の魅力に触れ、感性を豊かにする貴重な体験となった。 いざ、サバンナの世界へ▶



中学校合唱コンクール



11月12日(水)、中学校合唱コンクールが開催された。

1年生は初々しくも一生懸命な歌声を響かせ、2年生は少したくましくなった安心感のある歌声を披露した。3年生は最高学年として、立派な姿を後輩に示すことができた。練習当初は、協力的でない生徒がいたり、声量が足りなかったり、音程がそろわなかったりと、各クラスにそれぞれ課題があった。しかし、約2週間の練習を重ね、すべてのクラスが最大限の力を発揮することができた。

▲最優秀賞 3年5組

示すことができた。練習当初は、協力的でない生徒がいたり、声量が足りなかったり、音程がそろわなかったりと、各クラスにそれぞれ課題があった。しかし、約2週間の練習を重ね、すべてのクラスが最大限の力を発揮することができた。

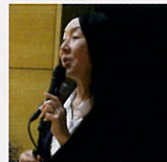
特に最優秀賞を受賞した3年5組は、美しいハーモニーを奏で、伴奏者賞・指揮者賞も獲得した。ブラボー賞を受賞した3年2組は、IAコースらしく英語の曲に手拍子を交えて歌唱し、会場を盛り上げた。閉会式で校長が述べたように、学校行事は互いの苦手なところを補い、良さを認め合う大切な活動である。今回の合唱を通じて、生徒一人ひとりが大きく成長する機会となった。

また、コロナ禍後3年目となる本コンクールは、生徒が担当する仕事を少しずつ増やし、行事としてのレベルを高めている。今後も生徒主体の学校行事を目指し、より充実したコンクールを目指していきたいと考えている。



▲ブラボー賞 3年2組

SGアカデミー



10月22日(水)にSGアカデミー未来講座が開催され、株式会社office 3.11 代表取締役でジャーナリストの井出留美氏を講師にお招きした。テーマは「賞味期限のウソ・ホント」である。

講演は、井出氏のキャリア紹介から始まった。

▲井出留美氏 内向的だった過去から行動的へと変化し、一人旅やJICA海外支援を経験された話は、生徒たちの共感を呼んだ。

続いて、食品ロスの実態についてクイズ形式を交えて解説され、「分ければ資源、混ぜればゴミ」「誰か一人にでもいいのでこの話を伝えてください」と、生徒たちの行動を促すメッセージが強調された。生徒たちは意外な事実には驚き、熱心に耳を傾けた。

質疑応答では、「なぜ日本では食品ロスを削減できないのか?」「賞味期限は保存状態によっても変わるのではないのか?」など、思考を深める問いが寄せられた。

この講演を通して、生徒たちは情報に惑わされず自分で考えて判断すること、小さな行動が大きな変革につながるということという大切なメッセージを受け取った。社会を変えるための今後の生徒たちの行動に期待が高まる。



▲講演の様子

イベント企画部



3年前、オープンスクールの企画の一つとして、生徒による授業を実施したことがあった。その様子を見て、学校の雰囲気をもっと魅力的に伝える最良の方法ではないかと考え、イベント企画部を立ち上げた。現在では、中高生の登録

▲イベント企画部のみなさん

者が約50名となり、説明会やオープンスクールで生徒スタッフとして活動している。全体会の司会進行や案内、学校生活の紹介、施設見学など、さまざまな役割を担い、自分たちの力で昭和学院の魅力を伝えようと努力している。その活躍は来校者にも好評で、受験生に



▲説明会を支える生徒たち

とって憧れの存在となっている生徒もいるという。

生徒にとっても、自分の言葉で学校の魅力を伝えるこの活動は、自身の学校生活を振り返るきっかけとなっているようだ。よりよい活動にするために、高校生が施設見学の説明内容をまとめたり、中学生の活動をサポートしたりと、自主的な取り組みも見られ、頼もしい限りである。説明会に欠かせない存在となりつつある生徒たちの今後のさらなる活躍が楽しみである。



▲司会を務める生徒

同窓会 総会



▲来賓挨拶 宮下副校長

同窓生と笑顔で立ち話をする姿が、そこかしこで見られました。女商2回生で今年95歳になる前会長から、創立間もない学校の様子、戦時中の女学生についての思い出話を伺ったのち、ご来賓の宮下副校長から暖かなご挨拶を頂きました。会計報告、役員改正等議案は

晴天に恵まれた11月1日(土)母校の伊藤記念ホールにて同窓会総会が開催されました。ホール前では久しぶりに会う

承認され、検討事項も討議され総会は無事終了。昼食後先生方のご案内で立派に変貌をとげた校内を見学し、その発展を喜びながらホールにもどり、吹奏楽部の演奏を聞きました。ステージいっぱい歌あり踊りありの楽しい演奏に皆大喜びでした。御年95歳の大先輩から23歳の若者が一堂に会し、まさに同窓会の景色でした。思い出話につきないながら再会を約して解散となりました。

昭和学院高等学校同窓会

会長 齋藤 紀子



▲総会の様子

奨学会だより

文化講演会を開催。テーマは「ちゃんと悩んで、ちゃんと生きよう」



▲阿久津友紀さん

講演中は、ご自身も乳がん罹患して治療する中で、報道の立場としてメディアの刷り込みや無意識の思い込みの怖さ、検診を受け

る大切さ、治療を受けることで絶望ではなく希望的選択肢が増えてくるといったお話や、一人で頑張るのではなく、周囲を頼ることの大切さについて語っていただきました。

約2時間の講演でしたが、病気への向き合い方、家族や友人が罹患したときの関わり方など、多くの事を考えるきっかけとなりました。講演内容は、ダイジェスト版を期間限定で配信しています。ぜひご家族でご覧いただき、病気だけでなく様々な課題について話し合うきっかけにしてもらえたらと思っています。文化教養イベント部では毎年、様々なジャンルで活躍されている方の講演会を開催しています。「この方の話を聞いてみたい」「こんな内容の講演会をひらいてほしい」といったリクエストがあれば、是非お寄せください。

10月4日(土)伊藤記念ホールにて、文化教養イベント部による文化講演会を開催しました。今年は保護者を対象に企画し、およそ120名が参加しました。ゲスト講師は、北海道テレビ社長室部長でピンクリボン運動の活動にも参加し、ご自身もがんに罹患した阿久津友紀さん。「ちゃんと悩んで ちゃんと生きよう」というテーマで講演いただきました。

千葉県私学振興大会への参加



▲私学振興大会の様子

講演中は、ご自身も乳がん罹患して治療する中で、報道の立場としてメディアの刷り込みや無意識の思い込みの怖さ、検診を受け

10月4日(土)午後開催された千葉県私学振興大会に参加しました。対象となる千葉県私立中学高等学校協会には、中学校24校、全日制高校54校、通信制高校10校が加盟しています。学校関係者や保護者らが一堂に会するとあって、会場は盛り上がりを見せていました。開催の目的は、私学教育の充実に向けて心を合わせることで、実は私たちが最も楽しみにしていたのは、めざましい実績を上げた県内の部活動を代表して昭和学院の新体操部と水泳部が表彰されることでした。

最前列に陣取った山本理事長や西谷副校長をはじめ、学校関係者や保護者たちと共に固唾を飲んで様子を見守る中、初の三冠を達成した新体操部の佐波結来さん(高3)はとて堂々とした表情で「最高の結果を出し、笑顔で仲間の人元に戻ってくることができました」「チームの大切さを改めて学ぶことができました」とスピーチし、会場から大きな拍手が送られていました。大会には昨年同じく約50人が参加し、終了後は皆で記念撮影も。まさに「チーム昭和」の結束力を示すことができたと感じています。



▲参加していただいた理事の皆さま

制服リユース品販売会を開催

学校生活支援部では、7月12日(土)に制服リユース品販売会を開催しました。当日は多くの生徒や保護者の方々にご来場いただき、会場は終始賑わいを見せました。販売会では、これまで大切に使われてきた制服が新たな持ち主のもとへと渡ること、リユースの意義を改めて感じる機会となりました。売上金は70,500円と、予想を上回る結果でした。この売上金は奨学会決算に収入として計上する予定です。皆様からのあたたかいご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

制服リユースについては、数年前から奨学会役員の有志がアイデアをあたためてきたものでした。昨年度から具体的に動かし始め、今年度は本格稼働する「制服リユース元年」です。9月には学校最大のイベントである桜和祭に合わせて制服回収も実施するなど、手探りの取り組みで困難もありましたが、なんとか軌道に乗せることができています。



桜和祭への出展協力



▲夢結びの絵馬堂

これまでの桜和祭では母姉部によるバザー開催が恒例となっていました。今年から母姉部が廃止となり、新たに総務広報部や桜和祭委員会が立ち上がったことを受けて、新しい催しを試みました。その名も「夢結びの絵馬堂」。総務広報部部長の森安をはじめ、メンバーの皆さんがフル回転で支えてくださり、心から感謝しています。「昭和学院神社」を校内に設け、生徒や来場者に願掛けをしてもらおう企画でしたが、対象は在校生だけでなく、桜和祭に来場する外部の方々も含めることにしました。昭和学院への入学を希望する子どもたちに喜んでもらえるようにするためです。準備として紙製の絵馬を購入し、高校3年生には事前に記入してもらい、当日会場に飾りました。記入内容は「第1志望合格!」「大学生生活を楽しむ」など、受験生らしい願いが多く見られましたが、中には「素敵な大人になれますように」という心あたまるもの、ユニークなものも沢山ありました。願掛けをした生徒からは「楽しかった」という感想が寄せられ、企画の意義を感じることができました。

当日は総務広報部のメンバーが中心となって花紙で作った花飾りを鳥居の形にして設置し、事前に集めた絵馬を飾りました。桜和祭が始まると、手分けして校内を巡り「神社で絵馬を書きませんか」と呼びかけを行いました。その結果、合計1,121枚(高校3年生の分含む)の絵馬に記入していただくことができました。

では、みなさんに書いてもらった絵馬はどうなったのでしょうか。実は後日、東京都内の有名神社に奉納し、満願成就を祈祷していただきました。奉納には奨学会会長の林、総務広報部部長の森安らが立ち会い、神職による厳かな祈祷と玉串奉納が行われました。こうした一連の取り組みを通じて、奨学会として桜和祭に新しい価値を



▲花紙で作った鳥居

提供できたことを誇りに思います。なお、桜和祭委員会は今年度の新設された組織で、桜和祭に奨学会全体として協力することを目的として作りました。年に一度の大きな行事に、奨学会として少しでも貢献できたことは非常に意義深く、今後の活動の励みとなりました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

